

重要無形民俗文化財の新指定（秋田県内18件目・全国最多件数を更新）

鳥海山北麓獅子舞番楽

- 文化財の所在地 秋田県由利本荘市、にかほ市
- 保護団体 鳥海山北麓獅子舞番楽由利本荘市保存協議会
（屋敷番楽保存会、坂之下番楽保存会、濁川獅子舞保存会）
鳥海山北麓獅子舞番楽にかほ市保存協議会
（伊勢居地番楽保存会、釜ヶ台番楽保存会、冬師番楽保存会、
鳥海山小滝舞楽保存会、横岡番楽保存会）
- 公開日 各地区の神社祭礼ほか

○文化財の概要

【指定の趣旨】

本件は、鳥海山の信仰を背景に伝承されてきた、獅子舞を重要視した神楽である。獅子舞は他の演目に先立って必ず演じられ、また、盆の時期や新築の際にも舞われる。本件は秋田県の旧鳥海町（現由利本荘市鳥海町）に伝わる本海獅子舞番楽から伝授されたといわれ、共通する演目等もみられるが、獅子舞の舞振りや演目の最後は「空白舞」（「空白からみ」とも）で終える点にも特色があるなど、東北地方の神楽の変遷の過程を考える上で貴重であり、地域的特色も示して重要である。

【文化財の説明】

本件は、鳥海山の北麓にあたる秋田県由利本荘市とにかほ市の8地区に伝承される神楽で、本海獅子舞番楽から伝授されたといわれ、本海流あるいは本海系とも称し、獅子舞番楽や獅子舞、あるいは番楽と呼ばれている。獅子舞を重要視し、神社祭礼などでは、始めに御神体の獅子頭を奉じて演じられるほか、盆の時期に初棚の家の座敷に上がって舞ったり、新築の際には地鎮を兼ねて祈願する柱がらみの舞として舞ったりする。獅子舞は、獅子頭の振りや歯打ちが比較的穏やかでゆったりとした点に特色がある。獅子舞以外の演目は、儀式的な式舞、神舞、武士舞、女舞、道化舞などがあり、伝承演目は20番程度を数える。最後の演目「空白舞」では、舞手4人が棒を手に持ち、舞台に据えた臼を中心に回りながら臼の縁や胴を棒でリズムカルに叩いたり、向かい合う2人が棒を打ち鳴らしたりして踊る。



屋敷番楽保存会（由利本荘市）「空白舞」



坂之下番楽保存会（由利本荘市）「三番叟」



濁川獅子舞保存会（由利本荘市）「獅子舞」



伊勢居地番楽保存会（にかほ市）「獅子舞」



釜ヶ台番楽保存会（にかほ市）「獅子舞」



冬師番楽保存会（にかほ市）「獅子舞」



鳥海山小滝舞楽保存会（にかほ市）「松迎え」



横岡番楽保存会（にかほ市）「翁」